令和6年度　　園評価書

園番号　　17　園名　　静岡市立久能こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かに たくましく	わくわくを見つけよう！楽しもう！	自分の好きな遊びを見つけて試したり工夫したりして、夢中になって楽しんでいる	環境構成の工夫や保育者が一緒になって遊び込んでいく中で、子どもたちの視野が広がり、好きな遊びを継続して行ったり、自分なりに試したり工夫したりして夢中になって楽しんでいる	A	A	・大谷こども園と久能小学校との交流の機会をもっと増やせないか。昨年度八幡こども園がきてくれたように久能山に一緒に登るなど他園との交流も増やして欲しい	・保育者が遊びのモデルとなり楽しみ、子どものアイデアや興味に合わせて環境を再構成していくことでもっと夢中になって遊び、試行錯誤する面白さを感じられるようにする ・行事の振り返りや帰りのひとときの充実、大谷こども園や小学校との交流等から、相手の思いを聞く機会を増やしていく ・集団遊びについては、担任が子どもの発達や経験させたい遊びを皆に伝えて職員間で共有し、保育者も遊びの中に入り込んで、集団遊びに近い経験ができるようにしていく
		身近な人との関わりの中で、自分の思いを表現したり、相手の思いに触れたりしながら共に楽しみ、共感し合う体験を積んでいる	日々の保育の中で、相手の話を聞いて理解し、それに対して意志表示するなどの反応の薄さはあるものの、自分の思いの発信は十分にできている。大谷こども園との交流の中でも少しずつ思いを表出する姿が見られるようになってきている	B	B		
		体を思い切り動かすことを喜び、楽しんだり挑戦したりする姿がある	鬼ごっこやだるまさんが転んだなどのルールのある遊びや大縄跳びや乗り物、ダンスなど積極的に体を動かす遊びを取り入れることで、繰り返し楽しんだり挑戦したりし、自信にもつながっている	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目		評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	年間を通して異年齢児保育を行う中で、発達や経験の差を踏まえ、一人一人に応じた柔軟で応答的な援助が行われている	必要に応じて保育の場をわけたり個々に合わせた関わりをすることで、子どものやりたい遊びや興味を追求することができた。個性や興味には合わせられたが、発達の押さえにやや弱さがあった	B	B	・一家庭で姉妹ということが絶対的な課題となってしまう。保育者と子どもの関わりが、良い意味で子どもと距離を詰め過ぎず、保育者が引いたり関わらない時間をもってもいいと思う	言葉かけの多さの改善や各年齢の発達に合わせた対応について密に話し合い、子どもの姿や個性、興味に合わせた援助を行うようにしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人が安心、安定した気持ちで園生活を送れるよう、スキンシップや声かけ等のかかわりに努めている	肯定的な受け答えを心がけ、その日の体調や気持ちに配慮して活動内容を変え、職員間でも共有するようにした。一日の流れを視覚的に知らせることで見通しをもって安心して過ごせるようにした	A	A		今後も人権擁護のチェックリストや話し合いなどを定期的に行う中で、保育者自身の表情、話し方、仕草、音量など常に見直しができるようにしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	地域の自然や人とのふれあい、久能山東照宮の文化等、久能ならではの経験を大切にし、遊びや生活に取り入れている	地域の自然を感じられるように散歩に出かけたり、勤労感謝の訪問やS型デイサービスのお年寄りとの定期的な交流を通して触れ合いを大切にしてきた。久能山東照宮梅林での定期的な観察や儀式、文化に触れることもできた	A	A		今後もS型デイサービスとの定期的な交流、栽培や梅干し作りの活動の継続。栽培や梅干し作りを通して地域の方との交流や文化に触れることなど、久能ならではの活動を大切にしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定の訓練を行う中で、緊急時には指示に従って行動するなど、できることを増やし、安全な行動が身に着くよう指導している	職員が減災教育を学びすぐに取り入れ地域の被害想定に合わせて具体的な想定での訓練を行っている。子どもたちはカエルポーズの必要性がわかってきている。駐在員を招き不審者の対応の仕方を学んだ。来年より駐在所が無くなるのは課題	A	A	・自然災害について現実的に捉えて考えてくれている	具体的で細かい想定の訓練をくり返し、職員間でも様々なパターンでシュミレーションを行うようにする。道路の工事の状況に合わせて避難経路などの確認には子どもと一緒に行き更新をしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的生活習慣の自立に向け、個々に合わせた援助を行っている。栽培からクッキングの体験を通して、食への関心が高まる取り組みをしている	栽培、収穫、クッキング、堆肥作りを繰り返していく中で、畑の作物の生長を楽しみにしている様子がみられた。げんキッズを使って食べ物の栄養の働きを伝えたことで、３色バランスよく食べる意識も高まっている	A	A	・久能ならではの堆肥作りや種から育てる栽培を行ってくれている	栽培の目的を日ごろから伝えていき、作物の世話を楽しみながら行えるように、植える物の数や種類などの調整もしていく。げんキッズを継続し楽しい昼食の時間を過ごせるようにする
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	外部研修での学びを園内研修などを通して全職員で共有し、職員各々の特別支援についての知識を深めている	研修報告は、回覧と口頭での報告で学びの共有をした。子どもの姿、配慮について話し合いをし、研修で得た学びを活かし子どもが理解しやすい援助として取り入れるようにした	A	A	・研修での学びは今後に生かして欲しい	今後も日々の子どもの姿から、日常保育に活かせる対応、援助、配慮などを話し合い、実践したり、実践後の振り返りなどの共有をしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌担当がリーダーシップを発揮し、互いが協力し合って、円滑な園運営に繋げている	各々が自覚をもって取り組むことができた。情報については、打ち合わせノートや事務室内での掲示、口頭でも伝えたり話し合ったりして職員間で共有ができている	A	A	・人数が限られている中で、スムーズに運営している	引き続き、分掌リーダーが中心となって、職員間で密な連絡をとり、共有しながら滞りなく進めていくようにする
6 研　修	(1)研修体制の充実	研修テーマ『「やってみよう！」につながる保育者の援助』として、日々の手立ての検証や公開保育、事前事後研修、評価を行っている	研修テーマの日々の手立てについての振り返り用紙を作成し、月案検討、反省の時に一緒に行うようにしたことで、担任の意識が高まった。また翌月につなげたいことなども共有できるようになった	A	A		今後も月案検討の中で研修テーマの日々の手立てについての振り返りや検討をし、翌月に活かした保育ができるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節の遊びや興味を持った遊びを十分に楽しむための素材や用具の提供、教材研究が行われている	季節の自然物やよく使う教材について深掘りし、扱い方や提供の仕方について実践研修を行った。職員自身の知識の一環となるようにしたが、教材研究で得た知識を保育に活かしきれなかった反省が残った	B	A	・季節の遊びや素材や用具の提供などを行ってくれている	引き続き、季節の自然物やよく使う素材、教材などについて実践的な研修を行い、子どもたちが十分に楽しめるように環境を整えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	食育、保健他の便りの発行や日々の活動、各種交流の様子などを知らせ、子どもの成長発達や子育ての情報を共有している	年明けからはコドモンでの活動記録の配信がスタートし、クラス便りの代わりとなったが、登降園時や、面談などでの情報共有も大切にしている	A	A	・可視化された情報共有が良かった	コドモンでの伝達が主流となっていくが、口頭での情報共有、必要な情報を適切なタイミングで伝えていくことも大切にしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	久能小学校、大谷こども園等との交流機会を多く持ち、子ども達が集団参加の経験をしたり、職員同士が交流を深めている	小学生とのどんぐり拾いやロング昼休みを活かした交流等で親しみや憧れなど興味をもつことができた。大谷こども園との交流でも友だちとの関わりを喜ぶ姿が増え、集団生活の経験を重ねており職員間の交流ももちやすくなっている	A	A		小学校とは年間計画だけでなくロング昼休みの交流や散歩に出かける等積極的に継続していく。こども園との交流は両園の子どもの様子に合わせ時間や回数の調整を図り、継続していく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園便りを届ける『久能の皆さんこんにちは』や、農園での活動、東照宮での梅摘み、梅干しの奉納やお裾分け等、継続的な交流が実施されている	園だよりのお届けや農園での栽培物、梅干しのお裾分け等継続的な交流とともに園や子どもの様子を知ってもらう良い機会になっている。勤労感謝の訪問やトナカイになってのお届けは子どもたちも楽しみながら交流をもてた	A	A	・久能ならではの密接なつながりができていると思う	子どもたちが活動の面白さ、近隣の方と付き合う心地よさを味わえるよう、今後も地域の文化財との関わりや人との関わりを大切にしていく